

<ダイジェスト版>

環境報告書 2013

～小さくても光る大学をめざして～



国立大学法人
電気通信大学
Unique & Exciting Campus

環境配慮の方針

トップメッセージ

電気通信大学の理念は、地球と人類の未来に明るい希望をもたらす人材の育成と、知と技の創造を謳っています。

現代社会は、環境、エネルギー、食料、文明間対立、南北問題などの複雑多様な地球規模の問題から、人々一人一人が安心・安全と心の豊かさを求める日々の生活においても、多くの困難な課題を抱えています。

本学は、これからの社会のあり方を見直し、20世紀型の物質文明から脱却して、すべての人々が「心豊かに」暮らせる社会を目指すべきと主張しています。

そのような社会は、人と人、人と自然、人と社会、人と人工物の間の豊かなコミュニケーションを基軸とする、新たな文明の模索と創造が必須です。

本学では、このような新しい社会を「高度コミュニケーション社会」と名付け、それを支える総合的科学技术の分野である「総合コミュニケーション科学」を創造し、それを発展させることにより、21世紀の社会と世界に貢献します。

本学は、情報・通信・電子・メカトロニクス・基礎科学（数学や物理、化学など）や広くコミュニケーションに関わる文理融合領域などの諸分野において、実践的能力を身に付けた優れた人材を輩出してきました。また、「光」を核とする科学と技術の融合など、数々のユニークな研究活動で高い評価を受けています。

2013年度には文部科学省「研究大学強化促進事業」に22機関の一つとして採択されています。これらの実績と伝統を踏まえ、今後は「総合コミュニケーション科学」としての幅広さと奥行きのある教育研究への展開をめざします。

本学は2018年に創立100周年を迎えます。100周年を目指したビジョンを「UECビジョン2018～100周年に向けた挑戦～」として掲げ、教職員と学生だけでなく卒業生も含めてオールUECでビジョン実現に向かって活動しています。

ビジョンの第一に、本学が「高度コミュニケーション社会」を支える科学技术基盤を担うことを宣言するため、「総合コミュニケーション科学」に関する教育研究の世界的拠点をめざします。と謳っています。

「総合コミュニケーション科学」は、狭い専門分野にとらわれることなく、すべての科学技术に「コミュニケーション」の視点を取り入れ総合化することにより、真に社会に貢献する科学技术を再構築しようとする本学独自の新しい概念ですが、環境に関する諸問題に対処するうえでも「総合コミュニケーション科学」が欠かすことのできないことはいまでもありません。

2011年3月に起こった東日本大震災、それに伴う東京電力福島第一原子力発電所の壊滅的事故等により科学技术のあり方が問われている現在、環境配慮への取組は本学に課せられた社会的使命を具現する活動のひとつでもあります。

今こそ、日本の再興・再建のため、また、人類と地球の再生のため「高度コミュニケーション社会」の実現をめざさなければなりません。



電気通信大学長 梶谷 誠

環境配慮の取組状況

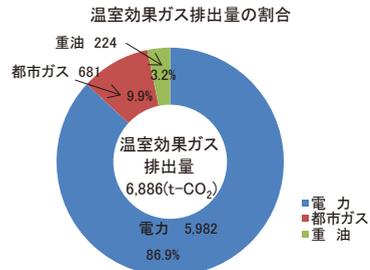
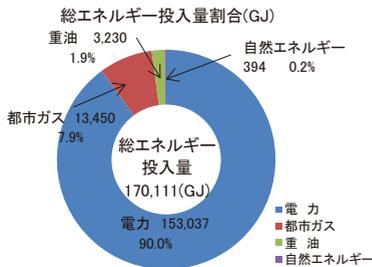
1 地球温暖化対策

目標：温室効果ガスの削減を図るために省エネルギーを徹底する。

東京都の「温室効果ガス排出量削減義務と排出量取引制度」により、削減計画期間（2010年度から2014年度）における各年度の排出量を、基準排出量 7,785t-CO₂/年に対して8%削減しなければなりません。（目標値：年平均7,163t-CO₂）そのため、計画的に省エネルギー等環境関連対策事業を推進しています。

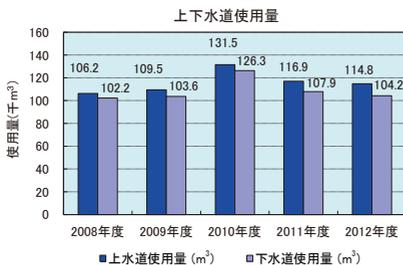


※ 2013年度、2014年度の排出量を7,000t-CO₂と想定した場合、2010年度～2014年度の5年間の年平均排出量は7,111t-CO₂であり、目標値7,163t-CO₂をクリアすることができます。



2 省資源、廃棄物の抑制

目標 1：水使用量の削減に努める。



上下水道

上水は地下水と水道水を利用しており、通常は地下水が上水全体の99%を占めていますが、2012年度は、井水揚水ポンプ改修を行ったため90.6%となっています。

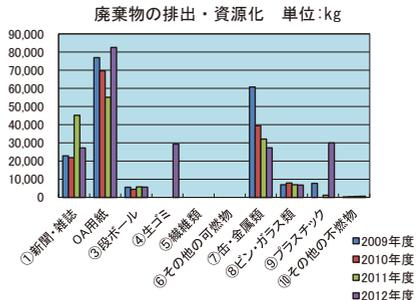
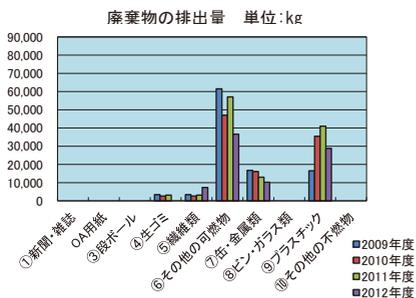
節水対策として改修工事で洗面器の自動水栓や節水型便器の交換などを実施しています。

2012年度は前年度より2.1km³ (1.8%) 使用量が減少しました。

下水排水量についても2012年度は前年度より3.7km³ (2.9%) 減少しています。

目標 2：省資源で廃棄物を抑制し、リサイクルに努める。

安全・環境保全室が総合的な廃棄物の一元管理を行い、適正な分別や保管のルールを定めています。「可燃」「不燃」「ミックスペーパー」「ペットボトル」「缶類」「ビン類」の分別ボックスを学内に設置し、教職員・学生に周知徹底しています。



目標 3：紙類の削減に努める。



ペーパーレス化の取組による、会議資料閲覧システムやプロジェクターの使用により、紙資源の削減を図っています。また役員会等主要会議における配布資料のペーパーレス化のため、電子会議システムを2010年度から導入しました。これらの取組等によりコピー用紙の使用量は2009年度をピークに穏やかに毎年度削減しています。2012年度は468千枚(5.2%)削減しました。

節電対策キャンペーンポスター

空調の設定温度の夏季28℃、冬季19℃、空室時や昼休みの消灯など、節電キャンペーンポスターや屋外各所に節電の立て看板を設置して呼びかけました。



夏季の節電ポスター



冬季の節電ポスター



立て看板

2012年度のトピックス

○キャンパス中心部にある広場「コミュニケーションパーク」をリニューアル



コミュニケーションパークは、学生、教職員、地域の人々が相互に交流できる場として、2002年にキャンパス中心部に整備を開始して、2010年4月に拡張開設されたパブリックスペースであり、2012年にリニューアルを行い機能の充実に図りました。

コミュニケーションパークの周辺には講義棟、学生会館、図書館等が配置され、これら学生支援施設と一体感をもって整備したことから、屋内外を連続したパブリックスペースとして機能させています。

「コミュニケーションパーク」の名には、電通大が目指す“高度コミュニケーション社会”の構築に貢献するという想いが込められています。

・芸術作品

コミュニケーションパークには、東京藝術大学の学生制作によるモニュメントを設置して屋外展示スペースとしても活用しています。これらは憩いの場にふさわしく「人と人のコミュニケーション」をテーマにした、作品がおかれています。



コミュニケーションパークの芸術作品

○ 保育施設「UEC保育園どんぐり」



挨拶を行う梶谷学長

本学では、2012年5月7日に保育施設「UEC 保育園どんぐり」を開設し、同日開所式を挙行了しました。

同施設は、教職員や学生の0歳児から6歳児までの子どもを保育する定員10名の事業所内保育施設としてキャンパス内の職員研修所旧館を改修したもので、女性教職員や女子学生が出産を経て職場や研究に復帰するにあたり、安心して子育てとの両立ができるような働きやすく学びやすい大学を目指し開設されました。

同施設の名称「UEC 保育園どんぐり」は、梶谷誠学長自らが命名し、「どんぐり園」の愛称で、親しみを込めて呼んでほしいとの願いが込められています。

開所式では、梶谷学長の挨拶に続き、梶谷学長、三橋渉男女共同参画推進本部長、保護者代表として古川怜特任助教（先端領域教育研究センター）、井上ひろみ保育園長4名によるテープカットが行われた後、参加者による施設見学が実施されました。



施設を見学する参加者たち



保育園施設の様子

○キャンパス環境リフォームチーム<CERT>の活動

学生による授業に関連したプロジェクト活動である「キャンパス環境リフォームチーム（CERT）」が結成され、自転車の整理、教室の清掃・放置ゴミの撤去などの美化に活躍しています。

この活動は、大学側からの請負仕事ではなく自主的に考え実行するものですが、スズメバチの駆除について検討・実施にあっています。



図 1



図 2

年来問題となっている学内に出没するスズメバチに対して今までこれといった事前対策が打たれていませんでした。2012年の夏にはコミュニケーションパークにある木の周辺にスズメバチが出没し、学生の安全が脅かされることとなりました。

スズメバチの巣を駆除することは危険が伴い、専門的な知識や道具を保有している業者に依頼をすることが一般的であり、巣を駆除することは駆除技術のないCERTができる対策としては現実的ではないため、スズメバチが巣を作る前にスズメバチを駆除する方針が取られることとなりました。

スズメバチの女王蜂は4月～5月頃に単独で巣を作るために行動をしており、これを駆除することが出来れば1つの巣を丸々駆除できたこととほぼ同じ意味を持ちます。この簡単な仕掛けを学内の数箇所に設置することによって女王蜂を駆除し、夏のスズメバチ発生を軽減しようということが本対策の目的です。

駆除には図1の様なスズメバチを駆除する為の簡単な仕掛けである捕獲器を作成しそれを用います。2Lのペットボトルを用意し、ペットボトルの側面四方に一辺2cmの正方形のしるしを付け、その正方形にHの形で切り込みを入れ、上部を外側に折り曲げ、下部を内側に折り曲げます。スズメバチを惹きつける誘引剤として、砂糖125g、酢100ml、料理酒300mlを混合させた液体をペットボトル内部に入れます。図2に捕獲器で獲した蜂の写真を掲載します。

○ 構内の緑地保全



秋の花植え

2003年6月から、春・秋の2回、花植え作業が行われています。

日常の花壇の手入れは、調布市民ボランティアグループ「調布花・はな」の皆さんが行ってくれており、また、花植え作業には、2009年度からは、本学と連携協定を締結している東京都立調布特別支援学校の生徒も参加しています。

○ キャンパス美化活動



夏のキャンパス美化活動



秋のキャンパス美化活動

定例の活動として、キャンパス美化活動を二度実施しました（三度実施の予定でしたが、冬（大学入試センター試験前）は雨天中止）。昨年度までの職員と学生との協働活動に加え、地域自治体や市民を交えた活動が始まりました。

○ 自衛消防訓練審査会入賞



自衛消防訓練審査会

本学の自衛消防隊は、2012年9月20日に開催した東京消防庁調布消防署主催による、平成24年度自衛消防訓練審査会において、日頃の訓練成果を發揮して第3位に入賞しました。

大学概要

- 国立大学法人 電気通信大学
- 教職員：542名
- 土地：115,433㎡

- 〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1
- 学生 5,609名 合計：6,151名
- 建物面積 138,978㎡

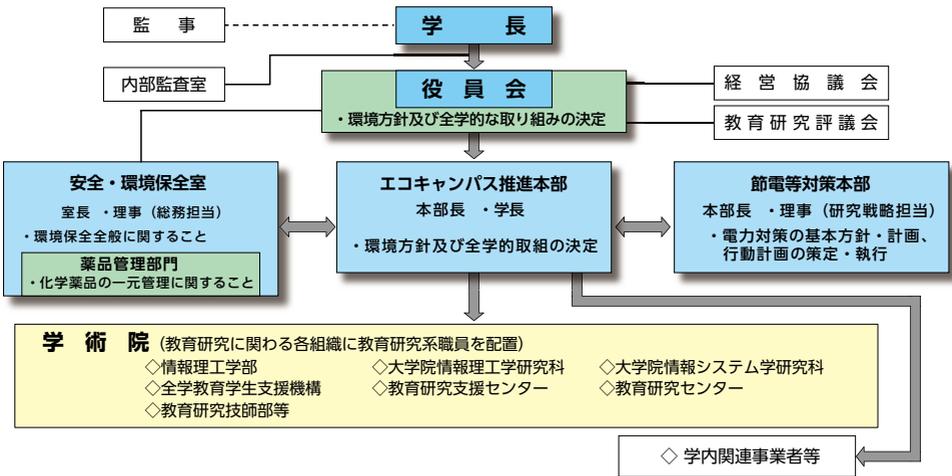
教育研究組織 (2012年度)

- 情報理工学部 (4学科, 1課程)
 - 総合情報学科
 - 情報・通信工学科
 - 知能機械工学科
 - 先進理工学科
 - 先端工学基礎課程
- 大学院情報理工学専攻 (4専攻)
 - 総合情報学専攻
 - 情報・通信工学専攻
 - 知能機械工学専攻
 - 先進理工学専攻
- 大学院情報システム学専攻 (4専攻)
 - 情報メディアシステム学専攻
 - 社会知能情報学専攻
 - 情報ネットワークシステム学専攻
 - 情報システム基盤学専攻
- 教育研究センター等



環境配慮の推進体制

環境保全活動を計画・実施し、環境配慮の対策を行うための推進体制は次のとおりです。



環境報告書の作成にあたって

● 参考としたガイドライン等

環境省「環境報告書ガイドライン～持続可能な社会をめざして～(2012年版)」2012年4月
 環境省「環境報告書の記載事項等の手引き(第2版)」2007年11月

- 対象年度 2012年度(2012年4月1日～2013年3月31日)
- 対象組織範囲 電気通信大学調布キャンパス(学生寮、国際交流会館は除く)
- 発行日 2013年9月(2012年度環境報告書発行日:2012年9月、次回発行予定:2014年9月)
- 環境報告書の編集・問い合わせ先
 国立大学法人電気通信大学 安全・環境保全室
 〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1 TEL: 042-443-5052 FAX: 042-443-5061
 本学に関するお問合せ <http://www.uec.ac.jp/inquiry/>
- 環境報告書2013本編について
 本編は次のHPで公表しています。 <http://www.uec.ac.jp/about/publicinfo/eco.html>



国立大学法人電気通信大学環境方針

わたしたち人類は文明の発展とともに、地球の温暖化、化学物質による汚染など、さまざまな環境問題に直面しています。

電気通信大学は、人類にとって地球環境の保全が最も重要な課題の一つであるとの認識に立ち、自然と人間の共存、環境との調和に寄与し、教育・研究活動による環境負荷の低減に努めます。

また、武蔵野の面影が残る緑豊かなキャンパスを維持し、地域に貢献し開かれた大学を目指します。

このため、次の事項を推進していきます。

1. 教育・研究活動から生じる環境負荷の低減と、環境の維持・改善
2. 省エネルギー・省資源、資源リサイクルへの取り組みの推進、グリーン購入の徹底
3. 本学に適用される環境関連法規、条例等の遵守
4. 武蔵野の地にふさわしい緑豊かなキャンパスの保全、環境の維持・改善活動のための地域社会や自治体との連携・協力
5. この環境方針を達成するために目標の設定と、教職員、学生及び学内関連事業者の協力による実現

この環境方針は文書化し、本学の教職員、学生、大学生協など常駐する学内関連事業者に周知するとともに文書やインターネットによるホームページを通して、本学関係者以外へも広く公表します。

平成18年9月25日

